

## 令和7年度自己評価表 中間評価

鳥取県立皆生養護学校

中長期目標	自己の生き方を探求していく人の育成 ～すべての人が自分らしく輝いて生きる社会づくりを目指して～	今年度の重点目標	①主体的な学びの実現 ②地域社会で豊かに生きる学びの実践 ③安心・安全な学校体制の構築 ④分担と協働による学校運営
-------	--	----------	--

学部・分室	評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	評価結果(9月)		
						経過・達成状況	評価	改善方策
幼稚部・小学部	①主体的な学びの実現	①主体的な学びの実現に向けた、授業力の向上	・昨年度、自立活動の指導において学習グループで流れ図を作成し、指導内容決定までのプロセスについて共有を図ることができたが、授業改善までには至らなかった。	・自立活動の指導において、個々の実態把握、ねらいを明確にした具体的な指導の実践や評価を行い、指導の工夫や改善を図る。	・外部専門家等の指導助言及び活用シートを活用し、学習グループ間で情報を共有する。 ・自立活動部等と協働しながら、自立活動に係る研修を開催する。	B	・自立活動の指導場面の動画や画像を効果的に活用し、指導目標達成に向けて、指導内容・支援について各学習グループ間で検討し、授業改善を行う。	
	②地域社会で豊かに生きる学びの実践	②身近な人と共に活動できる力の育成	・昨年度の学部研修で実際に行っている授業をキャリア教育系統表で振り返り、幼児児童の未来について考えることができた。	・幼児児童の未来に必要な力をグループ間で共有し、授業が展開されている。	・教師間の情報共有、学部研修を実施する。 ・身近な大人や友だちとの関わりを広げ、個々に応じたコミュニケーション力を育てるため、体験的な学習を設定する。	B	コミュニケーション手段としてi padや視線入力装置等のICT機器が効率的に活用できないか各学習グループで情報共有を行ったり、自立活動部等と連携を図ったりする。また、幼児児童の卒業後まで必要な力について考えることができるよう学部研修等を行う。	
中学部	①主体的な学びの実現	①生徒の興味関心を学びの入口とし、自ら進んで取り組もうと思える授業づくり	・昨年度、生徒の情報共有や学習計画の検討に使えるように、学部会の時間を調整したり、定期的に学習グループの会をもてる時間を確保したりすることができ、有効であった。 ・生徒が「わかった」「またやってみたい」と感じられるような授業づくりに取り組んだ。この取り組みを振り返り、今年度の授業づくりで取り組みたいことについて検討し、学部内で共有を行った。	・生徒のつぶやきを大切にし、疑問や気付き、興味関心を学習の中で活かした授業づくりをしていく。	・受け身でなく、生徒自らが取り組みたくなるような学習を目指し、自己選択・自己決定の機会や興味関心のあること、生徒自身が抱いた疑問や気付きを学習に取り入れる。 ・チームとして生徒の教育にあたれるように、学習グループの会の時間を確保し、情報の共有や検討できる時間を確保する。 ・生徒に対し、学習アンケートを年2回(前期・後期)実施し、授業づくりにフィードバックする。	B	・引き続き、学習グループや型での時間を確保し、後期の学習でも生徒が主体的に学びに向かうかけづくりに取り組んでいく。 ・自己を振り返る視点を大切にし、お互いに関わりやすい雰囲気や信頼関係の構築に努める。	
	②地域社会で豊かに生きる学びの実践	②自分なりのコミュニケーション手段で他者と関わり、他者に受け入れられたり、他者を受け入れたりして関わることの良さを感じられる活動の充実	・近隣の中学校との交流が再開したり、地域の方と交流したりする機会はあったが将来へ向けて広げたり深めたりしていく必要がある。	・自分なりのコミュニケーション手段をもち、他者と関わり合うことの良さを感じられる活動を行っている。	・学部内の他のグループや、他学部と生徒同士が関わる機会を設ける。 ・生徒の既存のコミュニケーション手段を把握、共通理解するとともに、コミュニケーション手段の多様性を広げる。 ・生徒に対し、学習アンケートを年2回(前期・後期)実施し、授業づくりにフィードバックする。	B	・地域との交流や学部内での関わり合う機会をきっかけとして、他学部とも関わり合う機会をもち、関わり合うことの良さを感じられるように努める。	
高等部	①主体的な学びの実現	①主体的な学びを引き出す授業づくり	・自分の思いを自ら表現することに学習の中で取り組んでいるが、受け身になる場面も多くある。様々な場面で「自分から」「やってみよう」という気持ちを高め、社会参加につなげたい。	・生徒が主体的に学ぶ姿をグループ等で共有し、それを引き出すことを意識した授業づくりをしている。	・個々の生徒が主体的に学ぶ姿について、学習グループで話し合う機会を設定する。 ・主体的な学びに向けた効果的なICT機器の活用について学部研修を実施したり、目的や効果を共有する時間を設けたりする。	B	・引き続き主体的な姿を具体化し、それを引き出すための学習内容や生徒への接し方について、話し合う機会を設定する。 ・ICT機器についての学部研修の実施や、現在の取り組みの共有を行い、目的や効果について考えていきたい。	
	②地域社会で豊かに生きる学びの実践	②社会とつながる学びの充実	・昨年は新たに高等学校との交流及び共同学習を実施し、生徒全員が他校と交流する機会をもった。目的の明確化や計画的な実施が必要という教職員の声が多く挙がった。	・他者や社会とつながる学習において、目的を意識して計画したり学習したりしている。	・見通しをもって取り組めるように、早めの計画や職員への周知、計画的な事前事後学習を実施する。 ・教職員間や生徒との対話を通じて、交流学習の目的や内容、方法について、検討・共有する。	B	・引き続き、他校や地域との交流及び共同学習を計画的に実施する。 ・前期の学習の様子を振り返ったり、より相手に伝わるような関わり方を考えたりできるような事前事後学習を実施する。	

様式3

教務部 教務課	①主体的な学びの実現	①主体的な学びを実現するための教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重複障がい学級の2つの類型を1つに統合し、医療的ケアの内容を教育的に捉え、自立活動の時間が充実するように教育課程の編成をした。これらの評価・改善をするだけでなく、今後も子どもの主体的な学びが実現するように、改善すべきところは改善していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの主体的な学びを実現するための教育課程を編成している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課内で、どのような視点で教育課程の改善を図るのか、各学部にどのように伝え、何を検討するのか、教育課程検討委員会で何を協議するのか等を共有する。</li> <li>・教育課程検討委員会では協議事項を明確にし、助言を受けて決定事項と各学部で協議することを整理する。</li> <li>・「個別の指導計画作成について」「評価について」等の研修を行うとき、これらが教育課程の編成につながることも伝え、意識を持てるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課内で、教育課程検討委員会での協議事項や学部で何を伝えるのかの共有を大切にした。</li> <li>・検討委員会では、確認事項や協議事項、今年度のゴールを明確にし、様々な助言を受け、助言を踏まえた上で全体周知した。</li> <li>・学部ごとに教育課程の検討に入る前に一人一人が編成に関わっていることを全体周知後、学部での検討に移った。ただ、今年度考えていくことが多い中時間の確保が不十分であったことと、いつまでに何をするのかを明確に示せた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部や学習グループで検討できる時間の確保をする。</li> <li>・第2回教育課程検討委員会で、いつまでに何をしなければいけないのか提示し、助言を受け全体周知をする。</li> <li>・今後も、学部会等を通して教育課程の編成に一人一人が関わっていることを伝え続ける。</li> </ul>
	④分担と協働による学校運営	④教務関係業務のスマーズな推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務課内で大切にしてきた「早めに周知をする」「事前にどんな準備をして、会では何について話し合うのかを視覚的に提示する」を、今年度も大切にし、より分かりやすい発信をしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が見通しを持って業務を進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課内で、いつ何を全体周知するのか共有する。</li> <li>・担任が、見通しを持って担任業務を行えるように、早めに且つ観察的、的にすることを提示する。</li> <li>・全体周知するときに、することをワンペーパーにまとめる・色分けをする・マークをつける等の工夫をする。</li> <li>・長期休業中は会の設定を工夫し、見通しを持って新学期の準備を進めたり、休暇を取りやすくなったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課内で、どのタイミングで何を伝えるのか話し合い、早めに周知することに努めた。</li> <li>・また、全体周知するときに、することをワンペーパーにまとめる・色分けをする・マークをつける等の工夫をして提示した。</li> <li>・夏季休業中は、午前中に全体の研修や会議を設定し、午後は各自の仕事をしたり休暇をとったりできるよう工夫をした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も早めに分かりやすく周知することに努める。また、今年度異動してきた教職員には個別に声をかけ、コミュニケーションも大切にする。</li> <li>・2学期も大きな行事や校外学習等ある中で、見通しを持ってそれぞれの業務ができるよう、行事予定に各自の仕事ができる日にマークをつけ行事予定を提示するときに呼びかける等の工夫をする。</li> </ul>
教務部 学校行事課	①主体的な学びの実現	①行事を通して人とのつながりを感じたり、もてる力を発揮したりできるような環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員アンケートでは皆生スボレク祭と皆生・プライト・フェスティバルで、人とのつながりが感じられたと、高い肯定的評価があつた。行事において、目指す子どもの姿「つながろう、つたえよう、やってみよう」により近づくために、環境づくりを意図的に仕組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚児童生徒が、行事を通して人とのつながりを感じたり自分の持てる力を発揮したりできるよう環境を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆生スボレク祭、皆生・プライト・フェスティバルでは、いろいろな人と触れ合う場面を意図的に設定し、学級や学部の枠に因われることなく、お互いに伝え合い、かかわり合う場を仕組む。</li> <li>・各行事の目標やねらいを明確にして、見通しももつて計画できるよう配慮したり教職員に呼びかけたりする。</li> <li>・わくわく体験、芸術鑑賞教室では、五感に働きかける活動を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆生スボレク祭では、学部の枠を解いて縦割りチームを構成し、色々な人と触れ合う場面を設定することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆生・プライト・フェスティバルでは、児生会によるふれあい活動を予定している。教職員に活動のねらいを呼びかける。</li> </ul>
教務部 情報機器管理課	①主体的な学びの実現	①ICT機器の有効活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動や校務においてICTを活用できるように、機器の整理整頓、整備、フォルダ階層構造の再構築とデータベースの改善を進めてきた。</li> <li>・ICT活用に関して、掲示板、研修、書籍の紹介などでの情報発信や提案を行ってきたが、自立活動部やインクルーシブ教育推進部と連携することで、子どもたちの主体性を引き出し、可能性を拓げるためのICT機器の活用が期待できると考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を活用することで期待される効果についての発信やICT機器の整理整頓・整備がされており、教育活動でICT機器を活用することが増えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT支援員との連携を高め、教育活動に関わる情報共有を図る。</li> <li>・教育活動におけるICT活用で期待される効果について、定期的に情報収集と発信をする。</li> <li>・自立活動部やインクルーシブ教育推進部と連携を図り、ICT機器を効果的に活用できる機会を設定する。</li> <li>・ICT機器の利活用について、定期的に活用状況や課題を確認することで、今後のICT機器の利活用に活かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTサポート事業を活用し、支援員から得た情報を掲示板で周知した。また、ICTを活用することで期待される効果について発信した。</li> <li>・自立活動部やインクルーシブ教育推進部と合同で、研修を企画し、ICT機器を活用する視点について学ぶ機会を設定した。</li> <li>・教職員アンケート等を活用し、ICT機器の活用状況や今後知りたい内容について情報収集を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器の活用方法を発信するため、引き続きICTサポート支援員に相談したり、助言していただけたりする機会を作る。</li> <li>・随時、機器の更新と整備を行い、ICT機器を使用できる環境を整える。</li> <li>・教職員アンケートの結果に基づき、ICT支援員とつないだり、機器の操作や使用方法について情報共有を図ります。</li> </ul>
自立活動部	①主体的な学びの実現	①情報提供の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動をはじめ、学習支援に関しての教職員の要望が多岐にわたる。「身体へのアプローチ」は、依然として要望が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動部から発信する情報が、実践で抱える課題の解決に役立っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の日程や内容、開催方法の工夫</li> <li>・教材の整理</li> <li>・研修動画や教材の情報等提示の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主研修会を3丁場同時に設定することで、教職員それぞれの関心や要望になるべく応えられるようにした。</li> <li>・研修動画や教材の管理については、最適な方法を検討している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・のびのびルームを中心には、教材の整理や情報の提示についてさらに工夫検討していく。</li> </ul>
学習支援課		①自立活動における専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の多岐にわたる要望に応じるために、分掌内で専門性を維持していくことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動の専門性向上のために、各部署が年3回以上情報発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部専門家の有効活用</li> <li>・部会の時間をを利用してケース検討会等を実施</li> <li>・自立活動夏季研修会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部専門家の活用が効果的になるように、活用シートを取り組みをまとめることができた。</li> <li>・夏季研修会は参加した教職員の評価が高く、自立活動部の学びにもつながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部専門家の積極的な活用につながるように、活用シートを誰もが手に取りやすい環境に整えたり、自立活動部が帯同できる機会を増やしたりする。</li> </ul>
授業づくり・自立活動・研修課	①主体的な学びの実現	①自立活動の「流れ図」を活用した授業づくりと授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、自立活動の「流れ図」をグループで作成することを通して、作成手順については周知できた。しかし、それらを活用した授業づくりや授業改善については、実践を重ねながら研修を深める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流れ図を活用して、根拠に基づいた実践ができている。</li> <li>・P D C Aサイクルを循環させた授業改善ができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流れ図の考え方や作り方についての基礎研修の実施</li> <li>・幼児、児童、生徒の実態等を共にしやすいグループ編成の工夫</li> <li>・各グループのファシリテーターとの情報共有と、協議が円滑かつ深まる工夫</li> <li>・各グループ1回以上の公開授業の実施</li> <li>・外部アドバイザーの有効活用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月に流れ図についての基本研修を実施した。</li> <li>・6月に補助資料（課題関連図等）についての提案を行った。</li> <li>・授業づくり各グループで流れ図を2～3名分作成した。</li> <li>・自立活動部が流れ図作成に取り組み、実態を見る視点や課題整理の仕方について助言を行った。</li> <li>・グループ研修の際、時間が足りない場合や、勤務時間の関係で少人数での実施となり、話し合いが難しい場合があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ研修では、1時間の使い方を図で可視化すると共に、タイムキーパーを設けて時間内にまとめができるようにする。</li> <li>・少人数で話し合う場合はアイデア出しを中心にして、型の会等を活用して意見を集約する。</li> <li>・今後、外部アドバイザーを活用した授業公開と指導助言を、各グループ1回以上計画しており、授業改善を進めいく。</li> </ul>

## 様式3

支援部 進路指導課	②地域社会で豊かに生きる学びの実践	②地域社会で豊かに生きるための進路指導の充実とキャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育や進路指導についての理解が進む一方で、教職員の中で経験の有る、無しで二極化が現れ始めている。</li> <li>・現在の取り組みが将来のどのような姿につながるかのイメージが具体的でない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が将来の豊かな生活について考える機会に参加している。</li> <li>・研修会や学習会などで教職員が意見を交換している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の生活のイメージが深まるように、卒業生や関係機関の事例を学ぶ機会を設定する。</li> <li>・研修会や学習会など、教職員が学び会う機会に意見交換の場面を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めの全体研修と高等部チューニングウィークに向けての研修は予定通り行うことができた。初任者研修にキャリア教育の時間を設定し、意見交換や疑問に答える形で学び合いの機会を設定した。</li> <li>・夏期休業中に事業所見学企画し、事前にミニ研修を組み込んで効果を高めた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修への参加率を上げるために、日常的に行われる行事や会に組み込むなど、機会を逃さず、時間や場所、周知の方法などを工夫して研修の幅を広げていきたい。参加人数が増えることで、意見交換や学び合いの機会も増えている。</li> </ul>
支援部 生徒指導課	②地域社会で豊かに生きる学びの実践	②家庭や地域と連携した継続的な支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、個別の教育支援計画の活用について呼びかけたが、まだ有効な活用ができないという意見も上がっており、活用についてはまだ課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が、個を語る会や懇談で個別の教育支援計画の検討や修正を行い、サービス担当者会や支援会議等で目標や支援内容を確認したりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の教育支援計画の定期的な検討や修正の時期に呼びかけを行い、活用の場面（指導計画・授業計画の検討時、サービス担当者会・現場実習打合せ、学びの場の検討時等）で目標や支援内容を確認したり反映させたりするよう適宜伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度始めの教育支援計画検討や修正、保護者への提示は予定通り実施できた。サービス担当者会での確認・見直しについては適宜声かけを行った。今後、校内体験入学や学びの場の検討時の資料としての活用を予定している。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な機会を捉えて確認し、加除修正を加えて、保護者や関係機関との共有や次年度への確実な引き継ぎにつなげられるよう、継続して内容の充実に努める。</li> </ul>
インクルーシブ教育部 交流教育課	②地域社会で豊かに生きる学びの実践	②地域社会において本校の子ども達のことを知つてもらうための交流及び共同学習の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校間交流や出身地域校交流など交流する機会が増えている。地域での交流も少しずつだが増えている。さらに地域の方々に本校の子ども達のことを知ってもらい理解につなげるために、地域での交流を推進していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々に皆生養護学校の子ども達のことを知つてもらう機会や交流を増やすための工夫を考えたり、取り組んだりすることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共生社会を意識した交流活動を推進できるよう、交流の意義を教職員に研修等を行い意識を高める。</li> <li>・地域での交流を推進するためには、『皆生交流人材バンク（仮）』を作成したり、子ども達の実態に合わせて学習に地域の方をゲストティーチャーとして招くなどの活用方法を考えたりを各学部で行い共有を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『インクルーシブ教育研修』『皆生地域交流人材・資源バンク』の研修を行った。交流の意義や、授業で活用できる地域の人材、資源について意見交換し、集約をした。研修後のアンケートでは「地域の人材や資源を活用してみたいと思いますか？」の問い合わせに肯定的な回答が100%であった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部の学習グループごとにまとめた『皆生地域交流人材・資源バンク』を1つに集約し、継続的に更新、追加していく。</li> <li>・地域との関りや交流のさらなる充実に向けて、課題も含めて、検討を継続する。</li> </ul>
人権・福祉教育課	①主体的な学びの実現	①社会参加につながるICT機器の活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・eスポーツ、視線入力等のICT機器の自主研修を行ったり、皆生スポーツ広場主催のeスポーツ交流会を行ったりしていく中で、WECルームを利用する子ども達が増えたり、ICT機器を活用し授業に取り組んだりする教職員が少しずつ増えてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達の社会参加につながる視点で、ICT機器の活用（例えば、視線入力を使い他校と交流をしたり、自己選択する学習にICT機器を活用したり等）を行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達の社会参加につながるICT機器の活用の推進について、自立活動部や情報機器管理部などと協力体制を作る。</li> <li>・社会参加につながる視点でICT機器を活用し授業を行っている事例紹介を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器の活用研修を自立活動部、情報機器管理部、ICT支援員と協力して実施した。研修後のアンケートでは「学習に活用できそうですか？」の問い合わせに肯定的な回答が98%であった。反面、「まだ一人では自信がない」「マニュアルがないと不安」などの意見も複数あった。</li> <li>・今年度、鳥取養護学校とeスポーツで交流を行ったり、米子南高校のeスポーツ部との交流を行ったりした。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動部や情報機器管理部と協力をしながら、ICT機器を活用する上での教職員の不安や課題に応じた環境づくりを進め、授業への活用に生かしていく。また、ICT機器を活用し授業を行っている事例紹介を行っていく。</li> </ul>
人権・福祉教育課	①主体的な学びの実現	①人権教育を通じて育てたい資質・能力を育むための職員の教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員アンケートでは、「職員の人権意識を向上させる必要がある」という意見が複数あった。近年の社会情勢の変化を踏まえ、様々な人権課題に触れ、職員の授業力を向上させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修や様々な人権課題に触れることが、子どもの興味・関心を引き出す授業作りに役立っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここ数年取り扱っていない、主体的な授業づくりに向けたテーマで職員研修を実施し、視野を広げる。</li> <li>・コンプライアンス研修等と連携して、発信・啓発していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月に「人権学習の授業づくり」をテーマに職員研修を行った。総勢40名で過去2年間の実践記録を見合い、効果的な指導教材や指導方法を学び、視野を広げた。グループで活発な意見交換を行う姿が見られ、授業について考える機会になった。「参考になつた」という意見が80%を超え、「学部を越えて実践記録を見ることで今後の指導に生かせそう」、「人権教育は教育活動全般で行う」という再認識をした等の感想があった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他校の人権教育公開授業の案内や人権研修の参加を掲示板などでお知らせし、参加を促す。</li> <li>・11月の人権教育参観日に向けて、学習グループで意見交換しながら授業づくりをしていく。</li> <li>・コンプライアンス研修等と連携しての発信・啓発については、後期に計画している。</li> </ul>
	②地域社会で豊かに生きる学びの実践	②社会参加に向けた、育てたい資質・能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員アンケートでは、「人権教育年間指導計画を担任が作成し、級外が目に入ったり共通理解したりすることができない」、「育てたい資質能力を年間を通して意識するために、確認する機会を定期的にもっては」という意見があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の幼児児童生徒の育てたい資質・能力を教職員で共通理解して、一年間取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育全体計画を教職員に周知し、学校教育全体で人権教育に対する意識を高め、教育実践につなげる。</li> <li>・個を語る会、個別の指導計画検討会等の機会に、人権教育年間指導計画の確認や意見交換の場を設け、目標設定から評価まで関わっている教員が共通理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に人権教育全体計画についての研修を実施した。</li> <li>・各学部の学習グループで人権教育年間指導計画を共通理解する場を設けた。目標達成のために、取り組むべき内容など意見交換した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の指導や評価について、学習グループで意見交換や共通理解する場を設ける。</li> </ul>

## 様式 3

保健安全部 保健指導課	③安心・安全な学校体制の構築	③関係者間でのスムーズな連携	・医療的ケアやその他疾患による配慮、安全上の配慮が必要な幼児児童生徒が多く在籍しており、対応も個別性が高く、安心安全のために確実に行う必要がある。そのため連携や相談が日常的に必要である。	・医療的ケア等の配慮が必要な幼児児童生徒の対応が関係者と円滑にできている。	・日常的に保護者や教職員、必要に応じて学校医や医療機関と幼児児童生徒の様子や医療的ケアについて情報共有する。(口頭、基本台帳、紙ベースにて) ・個別の緊急対応マニュアルやチェック表等の作成を関係者とを行い、随時点検や修正をしながら共有し、より安心安全をめざす。 ・学校保健委員会を参観日に設定し、保護者参加を広げて本校の学校保健について啓発を行う。 ・学校医や専門家による職員研修を行い、理解を深める。	・関係者とその都度幼児児童生徒の情報共有ができる、指示書の変更や追加等すみやかに対応できた。 ・緊急搬送が4月から4回あり、個別の緊急対応マニュアルに沿って対応することができた。 ・学校医による職員研修では、入学生の疾患理解やエビデンス訓練ができ、タイムリーな研修を実施することができた。	A	・引き続き、これまでの方策を続ける。 ・来年度に向けて、入学生の情報収集などアンテナ高く行う。 ・これから来年度にむけての書類の整え等始まるため、早めの行動に心がけ、丁寧に実施する
給食安全部 保健指導課	②地域社会で豊かに生きる学びの実践	②インクルーシブ下啓発への取組	・食育だよりの発行や学校給食週間での取り組みにより、食育への関心が高まっている。 ・校外学習等で食形態について外部の方に説明し協力を依頼するが、説明に時間がかかる。	・教職員がインクルーシブフードについて知り、良さや啓発の意義を理解する。	・職員から聞き取りやアンケートを行い、外部に食事を依頼する時に課題となっていることを整理し、周知する。 ・アンケートを受け、外部に説明する際に活用できる映像資料の作成を行う。 ・職員で視聴した後に、再度アンケートを実施する。	・本校が考えるインクルーシブフードへの取り組みに沿った動画作成のため、校外学習等で外部に食事を依頼する時の課題を開き取り、周知を行った。 ・映像資料については、調理業者の協力を得て形態食の調理工程、様子を撮影し、映像編集業者とやりとりをしながら動画編集を進めている。	C	・10月中に初版の動画を教職員で見て、内容や伝え方についての意見を集約し、改善に生かす。
安全管理教育部 教育安全課	③安心・安全な学校体制の構築	③発災時や事後対応の整理	・発災時、発災後の対応がケースによりさまざまで、確認に手間取り、すぐ行動に移しにくいことがある。	・発災時、発災後の対応が、わかりやすく、行動に移しやすいものになっていく。	・発災時等の諸対応を整理し、常に可視化できるようにする。 ・訓練等を通して、対応の見直しと改善をはかる。 ・危機管理マニュアルの改訂を行う。 ・外部専門家から助言をいただき、改善をはかる。	・発災時等の迅速な対応のため、備品の配置を可視化した。 ・訓練等を通して対応の見直しを図った。 ・危機管理マニュアルの改訂を行った。	B	・これから実施する訓練等においても、対応の見直しを図っていく。 ・行動の可視化のための提示方法を検討し、掲示する。 ・外部専門家に、危機管理対応のあり方について助言を求める。
総務部 総務課	④分担と協働による学校運営	④分担と協働による学校運営・働き方改革	・声を掛け合って年度始の業務をしており協力的な雰囲気である。 ・時期や業務によって時間外が多くなる教員がいる。	・自己や周囲の働き方を意識して、80%以上の教職員が具体的な改善に取り組んでいる。	・衛生委員会を活用した働き方の分析と取り組みの発信 ・働き方を考える話し合いの実施 ・勤務実績入力をとおした自己の働き方の確認と改善	・衛生委員会で各学部等の状況や意見を集約し協働して業務に取り組むための方策について分析・立案した。 ・夏季休業中に全教職員がこれから学校と働き方を考える機会をもち、その内容を活かして改善に向けて取り組み始めている。	B	・衛生委員会でのテーマを設定した調査を引き続いながら、時期ごとの課題を蓄積しつつ分担と協働を進めていきたい。 ・勤務実績入力については声掛けにより適切な運用・管理をする者が増えているが、定着するよう取り組んでいきたい。
事務部	○その他	教育資源及び環境の適切な整備	・特色ある教育活動の支援、施設・設備の老朽化による修繕の必要性または安心安全な教育環境の整備のため、中長期な計画が必要である。	・主体的な学びの実現のために必要な教育資源（人・もの・金）を効果的に調整・調達する。 ・安心・安全な教育環境となるよう施設・設備・教具の整備及び維持・管理を行う。	・予算状況について複数で執行管理し、教職員へ定期的に情報提供を行い、早期に事業効果が發揮されるよう計画的に執行する。 ・施設修繕については、教育委員会で策定された長寿命化計画に併せて、学校内で課題を整理し、優先順位をつけて予算要求する。	・企画委員会(7/9)で予算執行状況を報告した。今年度は予算を前倒しで執行している。 ・施設修繕について、教育活動に支障がないよう考慮しながら計画的に実施している。 ・臨時営繕についても迅速に対応している。 ・本校の課題や教育目標に応じ、令和8年度の修繕要望を提出した。	A	・事務室内での情報共有はもちろん、校内での情報共有をさらに密にする。 ・常に改善の視点を持ち業務を行う。

評価基準 A: 十分達成 [100%]  
B: 概ね達成 [80%程度]  
C: 変化の兆し [60%程度]  
D: まだ不十分 [40%程度]  
E: 目標・方策の見直し [30%以下]